



2020



CHARTERED SEPT.11.1953

Y'S MEN'S CLUB OF TOKYO YAMATE

YAMATE YMCA, 2-18-12, NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO TEL. 03-3202-0321 FAX.03-3202-0329

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-18-12 山手YMCA内

2019 - 20 会長主題

もっと地元を身近に感じようぜ！

あずさ部長	赤羽美栄子(松本)	「あなたの入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために」
東日本区理事	山田敏明(十勝)	「勇気ある変革、愛ある行動！」
アジア太平洋地域会長	田中博之(東京多摩みなみ)	“ Action! ” 「アクション！」
国際会長	Jennifer Jones(オーストラリア)	“ Building today for a better tomorrow ” 「より良い明日のために今日を築く」

会長 浅羽俊一郎 / 副会長 尾内昌吉 / 書記 尾内昌吉 / 会計 中村孝誠・金本伸二郎
 直前会長 浅羽俊一郎 / ブリテン 功能文夫 / 担当主事 星住秀一

2020年 4月
 <LTの月>

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため
 4月の例会およびヨルダン会は
 中止します。

5月以降は皆さんと相談しつつ決めていきたい
 と思います。
 山手クラブ最後の3ヶ月、メンバー間の交信
 を途絶えさせないよう皆さんと一緒に努力
 したいと思います。
 会長 浅羽俊一郎

ワイズメンズクラブ モットー

『 強い義務感をもとう
 義務はすべての権利に伴う 』

“ To acknowledge the duty
 that accompanies every right ”

4月 HAPPY BIRTHDAY

功能文夫 18日 尾内規子 24日
 飯島隆輔 25日

今月の聖句

わたしを苦しめる者はわたしの骨を砕き
 絶え間なく嘲って言う
 「お前の神はどこにいる」と。
 なぜうなだれるのか、わたしの魂よ
 なぜ呻くのか。
 神を待ち望め。
 わたしはなお、告白しよう
 「御顔こそ、わたしの救い」と。
 わたしの神よ。
 詩編 42:11・12

3月報告

会員在籍数	11名
例会 中止	
打ち合わせ会出席者	メン 5名 メネット 1名
会員出席率	— %
ゲスト・ビジター	1名
	合計 6名
ニコニコ	— (累計 25,074円)
B F 国内切手—g	外国切手—g

世の中がパラダイムの大きな変化をリアル・タイムで目撃しています。こういう時にどんな聖句が相応しいか悩みましたが、信仰の有る無しに関わらず、周囲に振り回されずに、希望を持って、絆を強めて前進するしかないのでしょうか。
 (浅羽)

会費の納入は、会計(中村・金本)への納入または下記銀行口座への振込みをお願いします。
 三菱UFJ銀行 高田馬場駅前支店
 普通 3548431 「東京山手ワイズメンズクラブ」

3月例会 中止

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い
開催を中止した。

打ち合わせ会

と き：3月17日（火）15:30～17:30

ところ：山手センター 101号室

出席者：浅羽、飯島愛子、飯野、中村、
星住（部分参加）、 5名
ビジター：菰刈輝彦さん（サンライズ） 1名
計 6名

通常の例会の開催はコロナウイルス感染拡大を
用心して中止したが、メンバー4名が自主参加し、
6月の解散例会について浅羽案を元に話し合い
を行い、解散例会案にまとめた。

解散例会 計画案

赤羽あずさ部部長を経由して提出された山手
クラブ解散届が理事・次期理事・区事務所に届いた
ことの確認が取れた。

これからは6月解散に向けた諸作業、中でも
解散例会の準備を具体的に進めることとし、計画を
3つのポイントに分けて考えた。

- 1) 解散例会の意義、
- 2) 解散例会の日程・プログラム、
- 3) 作業内容。

解散例会の意義

山手クラブは6月末の解散にあたって66年に亘る
諸先輩の尽力と実績を思い、名に恥じない形で
締めくくりたいと思う。そこで、クラブ設立時
メンバーを「チャーターメンバーズ」と称するの
に対して解散時メンバーを「ラストメンバーズ
（仮称）」と称することを提案する。前者は国際本部
に登録される光栄あるタイトルであるが、歴史と
実績を持つクラブが努力の果てに苦渋の解散を選
択する場合、後ろめたさや失望感を払拭して、
「ラスト・メンバーズとして誇りをもって解散に
立ち会う」というスタンスこそ山手クラブらしい
し、そんなクラブとしてワイズ史に名を残したい、
有終の美を飾りたいと思う。

私にとって山手クラブは60周年記念例会が証
明したように、高齢化・少人数化にも関わらず、
物事に積極的に向き合い、ユーモアのセンスに溢
れ、程よくもめながら活動に力を入れ、その上ワ
イズ運動について意見を発信するクラブでした。
だから6月の例会も、他ワイズにメッセージやイ
ンパクトを残すような元気な解散例会を企画した
いです。次の4つの要件を入れたものにしたい。

- (1) 66年の歩みを振り返る。
- (2) 今までの関係者からの愛顧に感謝する。
- (3) クラブとして最後のメッセージを発信する。
- (4) 印象に残るような味わいある例会にする。

（浅羽）

.....

解散例会の6月開催は中止

山手クラブの皆様

皆様から貴重なご意見本当にありがとうございました。

1ヶ月前には未だ楽観的に考えていましたが、
今は皆さんの言われる通り、健康と安全を優先し
ていきたいと思えます。

つきましては

・解散例会の6月開催は中止しましょう。日程は
白紙にして、今後の動向を見ながら考えていきま
しょう。

・については5月に入ってから山手クラブ解散の
挨拶状を関係者に送付したいと思えますが、どう
でしょう。理事通信（5月か6月）にも解散の件を
投稿したいと思えます。

・4月例会、ヨルダン会は中止したいと思えます。
5月以降は皆さんと相談しつつ決めていきたい
と思えます。

・他方、山手クラブ最後の3ヶ月、メンバー間の
交信を途絶えさせないよう皆さんと一緒に努力し
たいと思えます。

・山手YMCAがコビド19の感染予防のため活動を
控えています。職員の皆さんが様々な苦勞を背負
って仕事をしていくこととなります。彼らのため
に祈って下さい。

よろしくお願ひします。

とにかく今は健康第一でいきましょう。近いう
ちに再会できることを祈念します。

4月3日

浅羽俊一郎

あずさ部第3回評議会 開催中止

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、5月9日（土）開催予定の第3回あずさ部評議会は開催を中止し、提出議案は郵送による書面議決を行うことになりました。

第23回東日本区大会 開催中止

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて、6月6日（土）の北海道十勝における第23回東日本区大会は開催中止になりました。

おたより

<上妻英夫さん> 「ボタ雪や 一輪開花に 指をさす」 3月14日TVで ボタ雪の中 東京開花宣言と 指さして居ました。

<菰刈光彦さん> (サンライズ)

いつも、ブリテンのお知らせをありがとうございます。

そして今期は山手ワイズメンズクラブの昼間例会開催を知りお邪魔させて頂きましたが、次年度からはもう開かれないと知り寂しい思いの毎日です。

私のコメント時代、山手クラブはワイズを知るキッカケでした。叔父たちや親父が会員だった故にたいへんお世話になりましたことを思い出しつつ感謝の気持ちでいっぱいです。

たとえクラブが消滅しても、長年山手クラブを維持啓発されてこられた先輩ワイキチの皆さまには、お一人づつになられても生涯ワイズとして貫いて活動を続けて下さい。途中退場した、親父や叔父たちの分も！

新型コロナウイルスの蔓延を防ぐため様々な行事が中止になっています。今後ウイルス危機が収まり、一休みされましたら、東京サンライズクラブ、文京アフタヌーンクラブなどでお待ちいたしますので、何時でもお越し下さい。

.....

YMCAニュース

山手センターでは、感染拡大防止のために4月12日までのプログラムを中止としました。今後も状況を見て、プログラム再開を判断します。山手会館の出入りも必要最低限にしております。職員もテレワークを取り入れ、出勤日を可能な限り少なくしました。

例会等の会場使用についても、お受けできない状況です。ご了承ください。

こんな状況ではありますが、2名の新卒が山手に配属されました。世間では内定取り消しなど暗いニュースがあるなか、YMCAでは期待の新人です。どうぞよろしくお祈りします。

阪本翔矢さん（ウエルネス）

青木いのりさん（コミュニティー）

（星住秀一）

ご寄稿のお願い

皆さんからのブリテンへのご寄稿をお願いします。テーマは、何でも結構です。ご自由にお書きください。写真も歓迎です。機能まで、メールまたはFAXでお送りください。



○野に花が咲き木々も一斉に芽吹き始めました。何とも言えない美しさ、生命感です。私たちもお互いに元気に過ごしましょう。新型コロナの禍に負けることなく。

（K・F）



↑芝川沿いの菜の花



↑草刈り

↓トラクター試運転



↓ 田んぼと里山を望む



半日の遠出

見沼田んぼに親しむ

浅羽俊一郎

コビド-19（新型コロナウイルスによる感染症）
拡散を抑えるために不要不急の外出を自粛して
ここ数週間外出は買い物と散歩に限っていた。
そこに以前から関わろうか考えていた活動が4月
4日（土）から新年度が始まるとの連絡があった。
自分の年齢や体力を思うと、このチャンスを逃せ
ないかと遠出することにした。現地まで乗り継いだ
電車もバスもガラガラでホッとした。

その活動とは市民による無農薬稲作。現地とは
さいたま市の見沼田んぼの一角。山手クラブのメン
バーはご記憶だろうが、数年前に例会で卓話し
ていただいた藤原梯子さんが長年運営している
NPO 法人「水のフォーラム」の活動だ。

朝9時に田んぼを見降ろす里山に子連れから高
齢者まで15、6人が集結。この里山は初期の参加
者たちが切り開くまでは手入れもなまま鬱蒼と
していたそうだ。里山の管理も高齢化した農家こ
は大変な負担だそうだ。

今日は活動初日。藤原リーダーの指示のもと作
業が始まる。灌漑用水路沿いのゴミ拾いと草刈り。
長靴の人は用水路内のペットボトルなどを拾う。
馴れない鎌としゃがんだ姿勢での作業は応えた。
何故草刈りか。除草剤を使うと小動物の死骸が出
て困るそうだ。

1時間半で作業は終わり、里山の溜まり場で一
服。お互い間隔をあけて座って楽しく茶話会。
サラリーマン、主婦、年金暮らしと様々だが皆
気さくで私もすぐ溶け込めた。見渡すとこのグル
ープ以外にはまず人気がないことに気がついた。

そこへ農機具業者が頼んであった中古トラク
ターを届けて来てくれたので、早速田んぼで試し
に泥を掘り起こす。それまで使っていた耕運機が故
障しては修理代がかさんで弱っていたそうだ。

帰路、藤原さんの車からはるか耕作地と背後の
里山を一望していて、改めて来週から始まる田ん
ぼでの仕事を思う。春は田植え、夏は除草、秋は
稲刈りと脱穀。作業もこういう小集団も私には全
て初めての体験だ。続けられたら嬉しい。早くコ
ビド-19が収束に向かうことを祈るばかりだ。